

たむらソーシャルネット ニュース

三年目

人間関係

皆様のおかげで、なんとか三年目を迎えることができました。たことを、感謝申し上げます。

最近、異業種の方に会社の説明をさせていただく機会がありました。そのときに、「どうして、そんなにいろいろな仕事をすることができのですか」と言われました。しばらく考えられ、「解かりました。あなたがたの会社は、ネットでお仕事されているんですね。」「えっ」と問い返す私に「人の繋がりとという意味ですよ、当たってるでしょう?」「だからあなたがたがしようと思う以上にいろいろな仕事に出会っているのではないですか」

させていただいていることに、気づく機会となりました。

皆様との出会いを通じ、日々新たな経験をさせていただくことの幸運さを、一人一人の利用者の方々と向き合う時のエネルギーにこれからも変換していきたいと考えています。まだまだ歩き始めた私達の会社ですが、明日にどんな出会いが訪れるのか、どのような新たな経験と出会えるのか、わくわくと受け止め、可能性に挑戦していきたいと考えています。その結果が、役に立つ私達であればと願っています。

これからも、いろいろな宿題を皆様から頂きながら、そして学ばせて頂きながら、前を向いて進んで行きたいと考えています、どうぞよろしくお願いいたします。

(有)たむらソーシャルネット

田村 満子

プロジェクトX

挑戦者たち

「たむらソーシャルネット」の巻

梅花女子大学

人間福祉学科

加納 恵子様

社会福祉法の改正以来、「地域自立支援」が「合言葉」のように頻繁に聞かれるようになったが、そのことを「本気」で考え、日々の実践で「創意工夫」に励んでいる事業所が、どれくらいあるのだろう。実は、朝の連ドラ「ほんまもん」ではないが、私のゼミ生が今ボランティア修行?でたむらソーシャルネットでお世話になっている。厳しく喝!を入れてもらいながら、彼女は、「先生、アソコが果たしてる社会的な役割ってスゴイですね。自立を支援していくってことの意味をつくづく考えさせられます。」と、修行期間の延長をあつかましくも願い出たらしい。的確な言葉として表現できないでいるが、地域福祉の最前線で奮闘し、新た

な試みに柔軟な発想で挑戦している息吹や気配は感じ取っているようだ。

開設して2年と、まだまだでんてこ舞い状態で、代表の田村満子さんのそうでなくても華奢な体つきがどんどん痩せていってしまうのは心配だが、いつも目を輝かせて仕事の展望を語り、ユニークな仲間とのチームワークをこよなく愛する様子から、ソーシャルネットの魅力が伝わってくる。ウイメンズ・コレクティブのよさも活動の丁寧さや柔軟性に現れている。「採算は?」の質問に、「採算を先に考えて、仕事はできまへん。カネは後から何とかついてきてるみたい。ハハハ」という、どんぶり加減も「プロジェクトX」挑戦者たち」ばりで、頼もしい。まだまだ、これらのドラマ展開に目が離せないでいる。



おしなまの思い出

ハイブモイスト

「うたを詠む」

佐々木きみ 様

※ たむらソーシャルネット訪問介護
※ 事業をご利用のみなさまからさま
※ さまな「声」をお聞きすることがで
※ きました。

「こころのハリ」 大橋ヌイ 様

大橋さんは、店舗付き住宅でお一人暮らしをされています。お店があるので、お付き合いも広く、手芸をされたりお手紙を書かれたりなど、多くの趣味をおもちになって過ごされています。たむらソーシャルネットは週2日、2時間ずつ掃除と買物で訪問させてもらっています。大橋さんご本人にお聞きしたお話しをご紹介します。

「来てもらったときは、ゆとりをもっていらいらせずに過ごさせてもらっています。夜は一人ですが、昼間は店番をしたり、電話番したりして、それが心のハリになって心豊かに過ごしています。仏様の掃除は自分でしますが、他の掃除をしてもらって助かっています。」

大橋さんのこのお話には、楽しく生きる上で大切なことが詰まっているように感じました。手先が器用でいろいろなどころに工夫をされている大橋さん。訪問する私たちが教え

佐々木さんは明治43年生まれ。現在は三男さんのご家族と同居されていて、私たちは入浴の時にご訪問させてもらっています。佐々木さんご本人に最近楽しんでいらっしゃるごことなど、お話しをお聞きしました。

「今の楽しみは『うた』を作って、テレビ見て、その中に出てくる人が言っていることの意味を考えて、『私やったらこう思う。』と意見をもつこと。一日のことはテレビ見てたらだいたいわかります。でも、お父さんやら会いたい人はみんなあつちなので、あじけないなあ、と思うこともあります。」

とお話しされながら、次のような「うた」を紹介していただきました。
「私の一番好きな俳句は『曼珠沙華逢ひたき人のみな故人』と紙に書かれ、私たちに句の意味を説明して下さいました。達筆な字と生き生きした笑顔はいつも私たちに感動を与えてくれます。」



「気分転換と長生きの秘訣」

松井 義夫 様

松井さんは、現在94歳。昼間はお一人でお過ごしですが、長女の怜子さんが夜は泊まられています。怜子さんにお話しをお聞きしてきました。

「仕事をしながらの介護なので、夜週1回は兄と交替してもらっています。昼夜逆転していることもあり、自分のリズムと葛藤しています。ただ、父の血を受け継いでアルコールが好きなので、気分転換に毎晩夕食と一緒にとりながら晩酌を楽しんでいます。お互い『さし向い』でいるというのがいいようです。父には気ままに好きなこと、喜ぶことを何でもしてあげたいと思っています。」

たむらソーシャルネットでは、昼頃、近くのお店で買物をご一緒したり、昼食をお勧めしたりしています。怜子さんとは、『連絡ノート』で松井さんのご様子をお聞きしたり、お伝えしたりとやり取りさせてもらっています。怜子さんはいつもきつちりと『連絡ノート』に書いて下さっているのので、「こちら

負けじと(?)しっかり書かなければと、いつも気を引き締めています。松井さんご本人に長生きの秘訣をお伺いしました。

「好きなことをして、後悔しないこと、気ままに生きること。」

編集後記

「このニュースは今後も定期的に発行したいと考えております。」と宣言してしまつた昨年度の編集後記。あれは、第二号も絶対出すぞ!という呪縛だったのでしょうか。第一号から約一年。リニューアルしたとは言いがたい部分・部分に、あたふた作成した影がちらちら見え隠れしているとは思いますが、呪縛に背中をつつかれながら、なんとか発行までこぎつけました。ただ、このニュースはいつもお世話になっている皆様への感謝のしるし。そうなる来年もふんばらないと、気持ち新たにしています。

また、今回のニュース発行にあたり、ご協力くださいました、加納様、村井様、野木様、西野様、大橋様、佐々木様、松井様ありがとうございました。ニュースの内容や、たむらソーシャルネットの事業に関して、ご意見、ご助言ございましたら是非スタッフまでおねがいします。

(O・K)

T54210066

大阪市中央区瓦屋町3丁目2-24

TEL 06-6766-7071

(有)たむらソーシャルネット

高野山で涼夏はいかが？

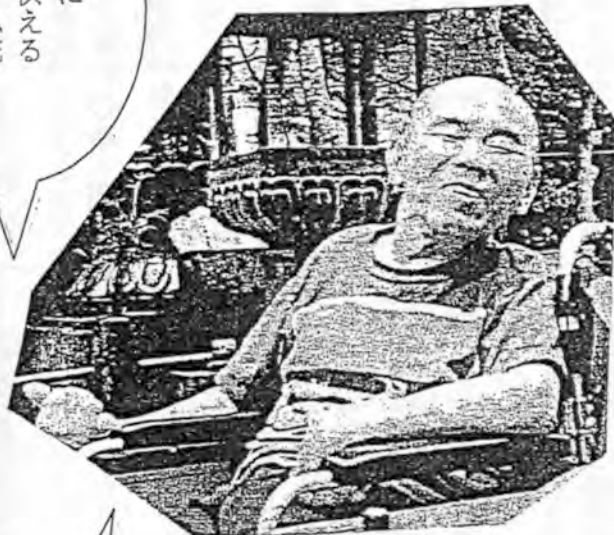
太陽が歯を食いしばっているような暑い夏。

野木様と西野様、灼熱王国・大阪を脱出！

涼しさに、みんなでポーズ

蓮の葉に
盆に供える

仏花
(西野)



くずきりを
食する口元

なめらかに
(西野)



野木さん、いつも
の笑顔でご
挨拶。

7月22日、野木春乃様と西野憲三郎様と高野山に行って来ました。そのときのお二人の様子を少ない紙面ではありますが、ちょっとご紹介します。緑いっぱいの高野山はやはり涼しく、心地よい一日を過ごすことができました。わらび餅やくずきりを食べて、涼夏度は急上昇。西野様からは、高野山散策の俳句を頂戴しました。